



ライフ・ケア・コンシェルジュ株式会社 代表取締役社長

みずた

まこと

水田 誠さん

大学卒業後、飲料メーカー勤務を経て、1999年に20歳代で製造派遣を行う日本エイム株式会社（現UTエイム株式会社）に入社。人事制度設計やIPO準備業務を担当後、事業部門に異動し、全国複数拠点で地域統括等の担当を経て、取締役として事業統括を担当。UTグループの執行役員として、キャリア開発部門でキャリア支援施策の推進を担当後に退社し、ライフ・ケア・コンシェルジュに参画。2023年、社長就任。

【写真】安岡 嘉

人材ビジネスの経験を生かし 在宅医療の推進に取り組む

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、特定非営利法人キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、一般社団法人留学生支援ネットワーク理事、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム理事・事務局長、高知大学経営評議会委員・客員教授、中小企業診断士、早稲田大学法学部卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材事業を産学官において展開。公的委員多数歴任、「インタビューの教科書」(同友館)をはじめ、著書多数。

HARA's BEFORE

世界一の高齢化社会である日本では、医療問題が大きなテーマになりつつある。在宅医療の推進に取り組むスタートアップ企業「ライフ・ケア・コンシェルジュ」を率いる水田さんは、異業種からの参入である。人材ビジネスで培った経験をどのように生かし、医療・介護分野にアプローチしようとしているのか、聞いてみたい。



り、半年後に訪問看護ステーションの許可を取って事業をスタートさせました。

現在は訪問看護ステーションの運営を中心に、サービス付き高齢者住宅や葬儀社などの紹介サービスも行っていますが、訪問看護以外の売上はまだわずかです。もともとのコンセプトはコンシェルジュなので、将来的には利用者のQOLの向上につながるサービスを増やしていきたいと考えています。また、土日の定期訪問や24時間の緊急対応、難病ケアなど、さまざまな利用者のニーズに応えられる体制を拡充しています。看取りの件数も年々増加しています。

原：個人のQOLを高めるために、人生の締めくくりはとても大事ですね。

水田：自宅で最期を迎えたいと考える人の割合は増加しています。一方、訪問看護師を志望する看護師の動機の一つとして、看取りをやりたいという人も少なからずいます。人の最期が安らかであることを支援するものです。特に終末期ケアは看護経験が浅かったり、医療的な判断ができる力量がなかったりと難しいのですが、当社もようやくそうした支援ができるようになってきました。

原：個人への訪問看護においては、病院や介護関係の機関との連携も大事でしょうね。

水田：訪問看護の枠組みは医師の指示に基づいて行われるので、主治医との連携はとても大事です。また、利用者の多くは介護認定を受けており、ケアマネジャーが立てるケアプランに応じ

訪問看護ステーションを運営する

原：まずは事業の現状について教えてください。

水田：当社は「高齢者を中心とした在宅医療や介護を受ける人、またその支援者の頼れる存在でありたい」との思いで、2017年に創業しました。社名にもその思いを込めています。自費の医療サービスや各種高齢者向けサービスの仲介で立ち上げました。当初は自費での看護やリハビリテーションを中心に行う予定でしたが、まだまだ医療とサービスがスムーズにつながる時代ではなく、自費サービスだけでは難しい状況があ